特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

知的障害特別支援学校における校内研修の持ち方

―「ファシリテーション」と「改善授業」―

静岡県立富士特別支援学校

＜学校の概要＞

霊峰富士に抱かれ駿河湾を南望する地に、平成２年に開校した知・肢併置の特別支援学校です。

平成 25 年５月現在、小学部 171 名、中学部 80 名、高等部 122 名（内、小学部 34 名、中学部 13 名、高等部 11 名は重複の肢体不自由）合計 373 名の通学生と訪問教育の 17 名が在籍する大規模校です。

教職員は、195 名を数えますが、年齢差、経験差は大きく専門性とチーム力の向上は、学校の重点目標として位置付けられ、研修にも熱心に取り組んでいます。結果、研修内容が理解できてくると、若い教員からは研修が楽しいという声も聞かれます。

校内研究体制のポイント

○　校内研修では、全体テーマを設定し、障害別・学部別のグループ研究に取り組んでいる。

＊校内研究の共有化が図られ、研究が専門性とチーム力の向上につながっている。

○　グループ研究は、全体テーマを具体化したグループの研究テーマを設定し、授業研究・授業実践を中心に研究を進めている。

＊各グループの課題に対応した具体化が更に図られている。

○　研究は、Ｒ（実態把握・課題把握）→Ｐ（計画）→Ｄ（授業実践）→Ｃ（授業評価）→Ａ（改善）のサイクルに基づいている。

＊ＰＤＣＡサイクルの最初にＲを位置付け、児童生徒の実態や課題を明確にしている。

＊Ａ（改善）の段階では、事後研究会の後、改善授業を位置付け、改善の結果や変容を考察している。当然ではあるが、授業研究をやり放しにせず、授業改善につなぐ意味ある研究としている。この取組が、自分の授業が変わっていくことを実感し、授業者の充実感につながっている。

○　授業研究は各グループが助言者を招聘し、他グループの授業研究にも参加し、校内外からの意見を研究や授業づくりに生かしている。

＊外部評価を大切にした専門性や指導力の向上を目指している。

○　事後研究会は、ファシリテーションの考えを活用し、少人数でのグループワークを行い参加型の研究にしている。限られた時間の中で、論点を明確にした効率よい事後研究が進められている。

＊そのため下準備として、外部講師を招聘し、研修課員や学年主任などグループワークのリーダーや経験の浅い教員を対象とした、課題別のファシリテーション学習会を設けている。

○　12 年間の学習の系統性を意識した授業づくりを進めるため、学部間交流を実施している。

＊他グループの授業や児童生徒に接し、発達段階に合った指導の重要性に気付いている。

研究の実際～中学部知的障害課程グループの取組例

○研究テーマ

全体テーマ：考えて行動する力を育てる授業実践　―働く大人を育てるために―

グループテーマ：気付き、考えて行動する作業学習　―支援の意味と加減を意識して―

＊中学部知的障害課程のグループは、学部目標「生活の自立と社会参加への基本となる力を身につける」の基本となる力を「働く力」「働く意欲」であるとおさえた。

そのためには、させられるのではなく自分からする主体的な行動の学びが重要であり、その基盤となる気付きや考えることの価値付けを確認し研究テーマに位置付けた。

しかし、研究が進むにつれて、気付き、考えることが目的化され、働く大人を育てることを忘れてしまいそうになりました。
目的と手立てのすり替わりに注意しましょう！

○「気付き、考えて行動する」姿の具体化と共通理解

作業学習場面での生徒の、気付き、考えて行動している具体的な姿を出し合い分析・検討した。

自分から準備する・次にやることに気付く・「製品」を作っていることに気付く・報告をする・依頼をする・規格に合った製品を作る・確認をする・違いに気付き正しく直す・危険に気付く・周りを見て気付く・自分から片付けをする

上記 11 項目にまとめた。その内容は、「自分から準備（片付け）をする」「次にやることに気付く」の２項目に具体的な姿が多く挙げられた。さらに、「次にやることに気付く」を分析すると「次」までの時間的な長さに違いがあることが分かり、「気付き、考えて行動する」ことを以下の三つにまとめた。

① 今、何をすべきか分かって取り組む（短い見通し）
② その時間内の見通しを持って取り組む（少し長い見通し）
③ 受けたアドバイスを次に活かす（長い見通し）

育てたい姿を日々の姿から具体化し、経験の浅い人にも分かりやすくしています。

○改善授業と支援改善シート

支援改善シート（事例生徒毎に作成）

１育てたい働く力
２実態：技能面・態度面
３目標：技能面・態度面
　＊以下、４～７は目標達成の手立てを活動設定・環境設定・教材教具・働き掛けの４点で支援の工夫を検討
４事前研修：手立てと目指す姿
５授業者の事前改善点と理由
６事後研修：グループワークごと「あらわれと改善点」
７改善授業：授業者が改善授業を行い分析、記録する

１の育てたい働く力は、作業学習の個人の年間目標を２、３は、技能面、態度面で記載する。

４の手立ては、左記の４点で記載。その支援結果、どんな姿を目指すのかを明記し支援の意味付けをする。

５は、事前研修や日々の授業で改善されたことを、その都度見え消しで加除訂正し、指導の過程を大切にする。

６は、グループワークの結果から改善点を記載する。

７は、改善授業を行った結果を考察し記載する。

このシートの活用での注目点は、項目５、７で授業者が支援の改善の理由を明確にし、目標達成を図っている点にあります。その結果が、研究テーマ（グループテーマ）にある支援の意味と加減につながっています。また、ファシリテーションの手法を用いたグループワークは、改善授業の改善点を明確にしています。